

## 長崎っ子の心を見つめる教育週間（校長講話）原稿

何のために、皆さんは集まっているのか理解していますか？  
今日から滑石中学校の『長崎っ子の心を見つめる教育週間』が始まるということで、集まってもらいました。

昨年度も、この時期に、どの小中学校で、校長先生からの話があったと思います。  
大園小学校では、どうでしたか？ 北陽小学校では、どうでしたか？ 滑石中学校ではどんな話がありましたか？

生徒の皆さんの心というより記憶に少しでも残るように、今年度はこの取組がスタートした時の思いに戻り、校長講話をしましょうとなりました。（これを**原点回帰**と言う！）

皆さん方が生まれる前の話がほとんどです。  
＝平成15年7月1日 長崎男児誘拐殺人事件＝  
長崎市内中学校の中学生が幼児を誘拐し、市内施設から突き落とし殺害するという事件  
＝平成16年6月1日 佐世保市小六女児同級生殺人事件＝  
佐世保市内の小学校で小6年の女児が同級生を刃物で刺して殺害するという事件  
＝平成26年7月26日 佐世保女子高校生殺害事件＝  
佐世保市内の高校生が自宅で同級生を刃物で刺して殺害するという事件  
（H24年～26年度生まれの皆さん方にとっては歴史です。）

当時の学校の先生・保護者ばかりでなく、地域や関係機関と多くの大人が『子どもに何をすればいいのか』と大いに悩みました。

そして、『いのちを輝かせて生きる 心豊かな長崎っ子の育成』をテーマに  
「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が平成16年からスタートしました。  
課題は、**子どもたちは、何を考えているのだろう！**でした。

### ●いのちは限られたものであり、自他ともに大切なもの！

紹介した事件の中での話です。（逸話かも？）血だらけの生徒を前に先生は「どこをケガしているの？」と問い、血だらけの生徒は「私の血ではない。」と答えたそうです。当時の先生たちは、「いのちが大切なことは、わざわざ教えなくても当然知っている！」と考えていました。（その先生は、生徒が返り血を浴びるほど他人を傷つけることなど想像もついていない！）大きな間違いであったと、考えました。

再度、皆さんに話をします。

### いのちは限られたものであり、自他ともに大切なもの！

どうすべきかについては、これからの生活の中で先生方や保護者、地域の方の支援を受けながら多くの友達とのつながりの中でしっかりと学んでください。

そして、来年度のこの集会のときに、「去年は『大切なもの』と言われたな！だから、○○をしたな！」と具体的に言えることを期待しています。

令和8年6月26日

長崎市立滑石中学校 校長 神尾進二